

取組の成果を次年度へ繋ぐ 全国で意思統一 ～林野労組 第21回定期全国大会～

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
(電) 096-354-1150

発行者 松本 慎 剛
発行日 10日
定 価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の行動

9月5日～6日 森林労連共済
推進会議（熊本市）
9月26日 林退会拡大幹事会
10月11日 全国共済理事会・代
表委員会
10月17日 全国代表者会議
10月30日 林活議連九州大会
（宮崎市）

7月26日、東京都・連合会館において、全国林野関連

労働組合第21回定期全国大会が開催され、九州地本からは分會を代表して参加した局分會の平松代議員を含め、代議員5名、傍聴2名が参加しました。



大会をまとめる中川議長

冒頭、中村中央本部執行委員長より「国内では、林野火災や資材価格の高騰、農林水産予算の議論など、我々の現場に直結する対応が急務となっている。本大会においては、改めて国会対策の重要性を理解したうえで、向こう一年間の取組について意思統一を図りたい」と挨拶がありました。

また、先の参院選について、与党が過半数を割る結果となった一方で、排外主義的な発言により、社会の分断が広がりがねない、そういった危機感が強まったと選挙戦を評し、我々は、木材の価格転嫁を始めとし、職場で抱える各種課題の解決や、森林林業基本計画における再造林の課題・人材確保に向けた具体的な施策等について、職場の声を今以上に国政に届ける必要があると述べました。

九州代議員発言要旨

【古村代議員】

〇総括治山技術官・支署次長ポストの要求について

九州は台風常襲地帯であり、大規模な災害が毎年発生する状況にもかかわらず、総括治山技術官が設置されていないのが現状。災害が発生すればその都度、総括森林整備官が中心となり災害対応を行っている現状である。このため、九州の未配置署に、総括治山技術官を設置するよう交渉の強化を求めたい。



また、九州の支署は、管内面積及び事業量が九州の中で最も多い。全国的に組織率が低迷している中、九州でも2年前から組織率90%を割り込んでいる。九州地本としては危機感を感じており、これまでに無い取組や具体的な対策を執行委員会で議論している。

また、本課題は組織全体で取り組むことが重要と考えられるので、今、中央本部としては新しい取組や各地本への具体的な指示など、しっかりと本部として旗を振ってもらいたい。

【松本代議員】

〇60歳超職員給与7割について

60歳超職員の給与7割の件については、当事者のみならず、若い組合員もその結末を注目している課題であり、オルグ等で解消を求める声が多くあがっていることから、更なる取組強化をお願いする。

また、本課題は組織全体で取り組むことが重要と考えられるので、今、中央本部としては新しい取組や各地本への具体的な指示など、しっかりと本部として旗を振ってもらいたい。

【平松代議員】

〇各種システムについて

近年、様々なシステムが導入され、必要に応じて改修作業が行われてきたが、改修を行うたびに不具合が生じている実態。4月の人事異動に伴う赴任旅費においては、人材統合システムと旅費システムとの紐付けに不具合が生じ、支払いは7月になってようやく目途がたった。また、業務旅費の支払いも遅延



また、本課題は組織全体で取り組むことが重要と考えられるので、今、中央本部としては新しい取組や各地本への具体的な指示など、しっかりと本部として旗を振ってもらいたい。

また、本課題は組織全体で取り組むことが重要と考えられるので、今、中央本部としては新しい取組や各地本への具体的な指示など、しっかりと本部として旗を振ってもらいたい。

【歌野代議員】

〇充電式ハンディソーの導入について

小規模の崩土や倒木の枝処理等が発生した際は、森林官等がナタやノコで対応しているが、該当箇所も多く、恒常的に負担がかかっている実態。また、台風等の災害調査ともなれば、ギリギリの実行体制で実施しており、さらに負担が増す状況となっている。

また、急にエンジンがかからないといった事案があり、幸いにも近者の協力が得られ、無事帰路につくことはできたが、入札不調が起因していると捉えている。対策として、早期発注ができる制度設計の取組を求める。あわせて、スペアタイヤを実装した車両を求める。

超過勤務について

車両で勤務時間外に出張する際は、同乗者も時間拘束されてしまう。運転手と同様に、超過勤務の対象となるよう、更なる取組の強化を求める。



力強い木下常任委員の発言

言詳細は別掲
執行部の提案が満場一致で承認されている。

匠の腕シネマ

「日田祇園山鉦」

(撮影者 市原増雄：大分西部分会)



「匠の一言」
日本一暑い町、天領日田はまだまだ夏本番



対アメリカへの投資額を80兆円へ上積みした政府。その利益配分の90%が米国に帰属される

とは、なんとその後味の悪さが残る。この政策の波及効果はこの先、国内の雇用や生活の安定に結びつくのだろうか。歴史を振り返ると、労働運動は過酷な現場に声を与え、賃金や安全基準を勝ち取ること、社会全体の厚みを増してきた。散逸された声は、団結することで資本の一方的支配に歯止めをかけ、社会的公正を確立してきた。冒頭の巨額投資は、将来、資本の論理に呑み込まれるか、それとも社会の土台を強める契機となるか。その解は、働く我々が「組織の力をどう活かすか」にかかっている。我々が積み重ねてきた取組を思い出し、欲しい。派手な変化はなくとも、団結の歩みは確かに積み重ねてきたはずだ。この大樹には、未来を支えるための年輪がある。

(松本)

2025人事院勧告 団結の成果 ～高水準も課題残す どう克服するか～

2025人勸期における取組の一環として、7月8日、地本は国交連合九州と連携し、人事院九州事務局交渉を実施しました。

国交連合九州から9名、林野労組から松本執行委員が出席し、昨年度の課題を踏まえた要求を行いました。

冒頭、国交連合九州の黒木議長（国税労組）から、「本年の民間春闘では、昨年度を上回る結果となっている。そのような中、国民生活の基盤を担う公務は、真に生活実態は改善されていない。また、現職はもちろんのこと、入庁を視野に入れている採用市場にも、魅力ある公務の職場として伝わるよう、本日は要求していきたい」と述べました。

その後、要求事項に加え、林野労組は①山上等作業手当の適用業務の拡充、②退職時のピーク時特例、③60歳以降の7割賃金の是正、④全世代でのベースアップを集中的に求めました。

人事院九州事務局長の回答は「国有林野の現場実態について、過酷な現場作業であることを改めて本院・関係課に伝えていく」と見解を示すにとどまっていますが、昨年度には屋久島署管内で視察が行われるなど、決に向けて取組が前進していることから、今後も継続した交渉が必要となっています。



要求する国交連合黒木議長(左)

今回、月例級3・62%の高水準に加え、初任給は3年連続中高齢層は昨年を上回る引き上げとなっています。

また、官民給与の比較対象とする企業規模を「50人以上から100人以上」に適用されたことで、高水準の結果に至ったとされています。連動する構図で、定年延長職員及び再任用職員にも波及効果が出た結果となりました。

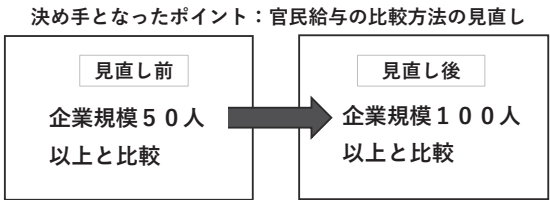
その他の主な給与制度の見直しとして、自動車通勤に関する各種調整も示されました。なかでも、通勤の目的を要件として、駐車場代が新設されています。

若し組合員から聞こえてきた貴重な意見は、次期の取組に反映するとしています。

具体的には、これまで若手に伝え切れなかった「署名対象者の範囲」をより詳細に説明し、今回取りこぼした筆数を補うとともに、改めて署名の効果を伝達するなど、基本的事項の強化が必要であることを確認しました。

今後は、示された人勸の早期確定に向け、公務員連絡会と連携し、取組を進めることとなりますが、地方でできることは「時間外職場集会で組合員の意思統一を図る」に尽きます。勧告の内容を確認するとともに、次期賃上げに向けた態勢の強化が全ての分会に求められます。

人事院勧告の推移				
年度	月例給の改定	ボーナスの改定	実質賃金との比較	その他
2020	据え置き	4.45カ月	ややマイナス	コロナ禍
2021	据え置き	4.30カ月	マイナス	コロナ禍
2022	0.23%	4.40カ月	マイナス	
2023	0.96%	4.45カ月	マイナス	
2024	2.76%	4.60カ月	マイナス	
2025	3.62%	4.65カ月	マイナス	



このように、今年の人事院勧告は一定の成果が反映されているものの、未だ実質賃金はマイナス基調であることから、「真に生活改善につながる賃上げ」を掲げ、職場集会等で意思統一を図ることが求められます。

新トップ不在？ それでも団結力は揺るがない ～宮崎南部分会 第21回定期大会～



宮崎南部分会は8月7日、署会議室において、第21回分会定期大会を開催しました。

冒頭、川口執行委員長から「日頃より組合活動にご協力いただき感謝申し上げます。当分会では、要員不足による業務の偏りや、若手職員への重負担、近年恒常的に発生する自然災害時の対応など、解決すべき問題が多々あり、当局に積極的働きかけを行っているが、未だに解消されずにいます。

消されているところ。今後も組合員一同、一枚岩となって闘ってきたい。」と挨拶がありました。

来賓として、歌野地本執行委員および九州労金日南支店立光支店長より、取り巻く情勢や、労金生活応援運動を交えた挨拶をいただいた後、日南市議会議員北山様からのメッセージが議長より代読されました。

その後、2024年度経過と総括、決算報告、2025年度運動方針（案）、予算（案）を執行部から提案があり、質疑・討論が行われました。

各議題については、その後の採決にて全会一致で承認され、最後は体調不良で欠席の沖田新執行委員長に代わり、和田副執行委員長による団結ガンパローで大会を終了しました。

冒頭、前田会長（長崎県林活議連）より、「森林環境譲与税の適正な執行や、木材価格の低迷、林業の担い手問題など、九州が抱える様々な課題を解決するためには、未結成市町村での議連結成が肝要となる」と挨拶

宮崎南部分会からは、村岡健斗さんを紹介しました。

村岡さんは長崎県諫早市出身で、諫早は、うなぎや諫早やきそば（ソウルフード）などが有名ですが、実は知る人ぞ知る牡蠣の産地でありとても良い街です。

そんなグルメな街で育った村岡さんは、令和5年度に熊本森林管理署に採用され、3年目となる今年度からは、森林整備課で企画係として活躍しています。淡々と仕事をこなす姿は物静かでクールですが、時折見せる花が咲いたような笑顔はとても眩しいです。

幼少期から陸上をしており、長距離が得意であるため、連合主催の駅伝大会には毎年快く出場していただいております。バンダナを巻いて颯爽と走り、毎年「ぼうばきして櫓を渡す姿はまるで「エース村岡」です。また、走っている時は爽やかさが3割増しになります。

現在、来年の熊本城マラソンやトレイルランニング大会への出場を目指し、大好きな牡蠣を食べつつ、日々トレーニングに励んでいるそうです。

今後も、持ち前の爽やかさを活かし、仕事と組合活動共にエース級の活躍をしていただきたいです。

（局分会：平松通信員）



地本・長崎分会で対応

あの人 こんばん

「エース村岡」

村岡 健斗さん（局分会）



爽やかさ3割増しの村岡さん

今回局分会からは、村岡健斗さんを紹介しました。

村岡さんは長崎県諫早市出身で、諫早は、うなぎや諫早やきそば（ソウルフード）などが有名ですが、実は知る人ぞ知る牡蠣の産地でありとても良い街です。

そんなグルメな街で育った村岡さんは、令和5年度に熊本森林管理署に採用され、3年目となる今年度からは、森林整備課で企画係として活躍しています。淡々と仕事をこなす姿は物静かでクールですが、時折見せる花が咲いたような笑顔はとても眩しいです。

幼少期から陸上をしており、長距離が得意であるため、連合主催の駅伝大会には毎年快く出場していただいております。バンダナを巻いて颯爽と走り、毎年「ぼうばきして櫓を渡す姿はまるで「エース村岡」です。また、走っている時は爽やかさが3割増しになります。

現在、来年の熊本城マラソンやトレイルランニング大会への出場を目指し、大好きな牡蠣を食べつつ、日々トレーニングに励んでいるそうです。

今後も、持ち前の爽やかさを活かし、仕事と組合活動共にエース級の活躍をしていただきたいです。

（局分会：平松通信員）

未結成市町村の議連結成を九州各県で課題共有

8月27日、長崎県庁議会棟において、「令和7年度森林・林業活性化促進議員連盟・九州連絡会議役員会」が開催され、九州地本から地本3役、長崎分会からは森委員長が出席し、九州大会（開催地：宮崎県）の開催に向け、九州地域の森林・林業を取り巻く情勢などの共有が図られました。

林野労組としても、未結成市町村に対し議連結成への取組を進める中で、特に森林管理署が所在する自治体での議連結成は強く求められます。

冒頭、前田会長（長崎県林活議連）より、「森林環境譲与税の適正な執行や、木材価格の低迷、林業の担い手問題など、九州が抱える様々な課題を解決するためには、未結成市町村での議連結成が肝要となる」と挨拶